

## すこやか生活習慣

### 「うつ病のお話」

うつ病というと、特別な病気と考えている人が少なくありませんが、誰でもかかる可能性のある身近な病気です。「うつ病」は精神疾患の一つで、気持ちの問題ではなく、脳の病気であることが医学的にも明らかになってきました。

現代は、不況やリストラなど、さまざまなストレスがあふれ、うつ病にかかるかたが増えていています。統計的には20人に1人くらいはうつ病にかかる可能性があると考えられています。

うつ病のきっかけには、学校や職場の人間関係、病気やけが、家族との死別など、日常生活のストレスが関係しているといわれています。しかし、昇進や結婚など、他人から見れば喜ばしいと思われることでも、本人にとってはストレスを感じていることもあります。自分ではストレスに気付かず、無理をしてしまい、うつ病にかかり悪化してしまう場合もあります。

うつ病の多くは、気持ちが落ち込む、眠れない、食欲がないなどの症状があらわれます。体の不調が前面にあらわれ、うつ病を見逃してしまう場合もありますので、注意が必要です。

治療の基本は休養と薬です。個人差はありますが、焦らずに気長にきちんと治療を続けていくことが回復につながります。心の病気だからと気力で治そうとするのは間違いです。脳にトラブルが起きているのですから、早めに医療機関を受診して治療しましょう。

保健センターではうつ病の患者さんを持つ家族のかたを対象に、9月に「うつ病家族教室」を開催します。うつ病を正しく理解し、同じ悩みを持つ家族の話聞くことができる機会です。参加を希望されるかたは、今月号の「健康ひろば」27ページをご覧ください。



## 子育て支援

### みんなであそぼう

年齢に応じた楽しいあそびを親子で楽しみましょう。子育てに関する親子講習もあります。

対象…おおむね1歳(歩行完了児)～3歳の幼児と保護者

持ち物…上ばき・手ふき・着替え・ビニール袋

\*飲み物(お茶または湯)は、各自でご用意ください。

\*どろんこ遊びに参加のかたは、汚れても良い服装でお越しください。

場所	月	1歳児(15組)	2～3歳児(15組)	時間
南青木保育所	9月	2日(水) どろんこあそび	3日(木) どろんこあそび	9:30 } 11:00
		8日(火) たのしいおはなし	9日(水) たのしいおはなし	

●参加申し込みは1カ月1回となります。

\*申し込み・問い合わせ…子育て支援センター

南青木保育所 ☎251-7249 / 受付時間 月～金曜日 13:00～16:00  
戸塚西保育所 ☎298-4952 (受付開始 8月5日(水)から)

### 園庭開放

※8・9月の園庭開放は、お休みします。

### 育児相談

日時…毎週月～金曜日 13:00～16:00

場所…南青木保育所 ☎251-7261 戸塚西保育所 ☎295-0930

※次の場所でも「子育て親子の交流の場の提供」「子育てに関する相談」「子育て情報の提供」を毎日実施しています。また講座などのイベントもあります。詳細は各保育園に問い合わせください。

- 川口駅前保育園地域子育て支援センター(川口1-1-1) ☎222-6011
- 川口こども園(安行領根岸1291) ☎286-0069
- キッズプラザアスク東川口保育園(戸塚4-21-1) ☎298-0083
- フォーマザー保育園(東川口3-2-29) ☎291-2713
- 汽車ぼっぼ保育園「ぼけっと」(東川口6-8-19) ☎229-6017

# 健康ガイド

## ワンポイントアドバイス

### 「血管造影」

川口市立医療センター放射線科  
部長 荻 込 正 人



放射線科という科は、一般のかたにはなじみが薄いと思います。放射線科は放射線診断と放射線治療の2つの部門から成り立っています。画像センターでは、主に画像を読影してその診断をつけるという放射線診断の業務のほかに、他科の先生から依頼されて行う血管造影の業務があります。

血管造影は、血管にカテーテルを挿入し、目的とする臓器までカテーテルを進めて、造影剤を注入して撮影をしたり、治療をしたりします。CTやMRIの進歩により血管の再構成が可能となったため、最近では診断を目的とする血管造影はかなり減少し、血管内治療を目的とすることがほとんどです。

血管内治療は、胸部、腹部、骨盤、四肢など全身に広く応用され、塞栓物質を使って病変に行く血流を減らしたり、止めたりする動脈塞栓術と、逆に閉塞、あるいは狭窄した血管を広げて血流を改善させる治療があります。

具体的には、炎症性病変による肺の出血、腹部の動脈損傷・動脈瘤・血管奇形・腫瘍からの出血を止めるため、あるいは肝臓・腎臓の腫瘍を縮小するために塞栓物質を用いて動脈塞栓術を行います。塞栓物質は、細片状になったゼラチンスポンジ、液体塞栓物質、金属コイルなどがあり、それぞれ病変に合わせて使い分けています。

下肢に行く動脈が閉塞している場合には、バルーンカテーテルを用いて血管腔を広げ、その後にステントというメッシュ状の金属の筒を留置して血管腔を確保します。

今回取り上げたのは放射線科の日常業務の一部ですが、放射線科医は全身の広範囲にわたっての診療を日々行っています。